

入選

少しの勇気

兵庫県 関西学院中学部

1年 多田吉輝

僕は小さい頃から、率先して行動するのが苦手だった。なので、人に親切にすることも、あまりできずにいた。親切にすることは難しいことだと思い込んでいたのかも知れない。だが、ある2つのできごとで、自分も人に親切にしようと思えた。

3カ月くらい前のことだった。僕は学校から帰る途中に、杖をついてゆっくりと歩いているおばあさんを見かけた。大変そうだなと思いながら見ていると、突然おばあさんは足をすべらせて倒れてしまった。すると、すぐに周りの人が駆けつけておばあさんを起き上がらせたり、落ちてしまった荷物を渡したりしていた。

その中に、同じ学校の先輩がいたのだ。必死に人助けをしている先輩の格好いい姿を、僕は後ろから見つめていた。この先輩が、人に親切にすることの大切さに気づかせてくれた。とはいえ、まだ僕にとって人に親切にすることは、難しいことだった。

その1カ月ほど後に、電車に乗って遠くまで出かけた。すいていたので近くの席に座った。その後、だんだん人が多くなってきて、席がすべて埋まってしまった。ふと見ると、妊婦の方が座る席が無いか探していた。それに気づいてはいたけれど、なかなか席を譲れずにいた。すると、僕のとなりになっていた人が席をゆずっていた。本当は自分もゆずりたかったが、結局ゆずれなかった。そんな自分に少し腹が立った。

この2つのできごとの後、今度こそ人に親切にしようと思っていると、機会がやってきた。自分の前の人ティッシュの袋を落としたのだ。その人は落としたことに気づいていないようだった。すぐに拾って渡すと、その人は「どうもありがとう。」と笑顔で言ってくれた。今まで、家族や友達や先生以外の人に感謝されたことはあまりなかったので、うれしくなったし、人に親切にすることはこんなに良いことなのだと気づくことができた。

今では、あのとき勇気を出して拾っていて本当に良かったと思っている。これは確かに小さなことかもしれない。でも、あのとき親切にしていなかったら、今でも人に親切にできないままだったと思う。これからもあのときの気持ちを忘れずに、人に親切にすることを心がけようと思う。